

平成24年度「たかつ水と緑の探検隊」の概要

日 時：平成25年2月16日(土) 13:00～15:30

場 所：川崎市立緑ヶ丘霊園内の谷戸

講 師：岸 由二氏(「エコシティたかつ」推進会議委員長、慶應義塾大学教授)

参加人数：約40名

実施内容：

1 オリエンテーション

2 調査

岸先生の解説により、全員で緑ヶ丘霊園の環境状態を確認

(1) 歩道の観察

歩道を歩きながら、岸先生が植栽について解説。常緑樹が多く見られていて、冬でも地面に太陽の光が当たらないため、下層植物が育たず、一部で土砂の流出が見られた。



(2) 谷戸の観察

緑ヶ丘霊園内には、降った雨が集まってくる小さな谷がいくつか存在するが、植林されたスギやヒノキが放置され、台風や大雪で倒れたままになっている箇所があった。

間伐等により手入れをすることで、多様な生き物が生息し、保水力のある雑木林に再生できる。



(3) 湧水地の池の観察

湧水池に住む生きものの観察を実施した。

【生息する生き物】

アメリカザリガニ、ヨコエビ、ヌマエビ、ミズムシ、アカムシ



(4) トキワツユクサの駆除作業

繁茂している外来植物の「トキワツユクサ」の駆除を実施した。



作業前



作業後

3 まとめ

(1) 参加者からの感想

- ・森の植栽について理解が深まった。
- ・外来生物を退治するのが、こんなにも大変だとは思わなかった。
- ・友人が茅ヶ崎公園の管理作業に携わっているが、そこは野の花がすばらしくきれいで、この緑ヶ丘霊園もそんな風になったらいいなと思う。

(2) 岸先生の総括

谷戸(小流域)の管理を間違えると、土が流れ落ち、治水といった面での課題が生じる。最初に確認した坂道では、それが確認できた。次に確認した下の谷戸では、杉が大きくなっていたが、伐採しておらず、保水力が落ちつつあった。今日の体験を通じて、谷戸の健康状態を少し気にしていただけるようになったと思う。

それぞれの谷戸の生物多様性、水循環、防災、といった谷戸の健康の維持管理は、「エコシテイたかつ」の目標である。

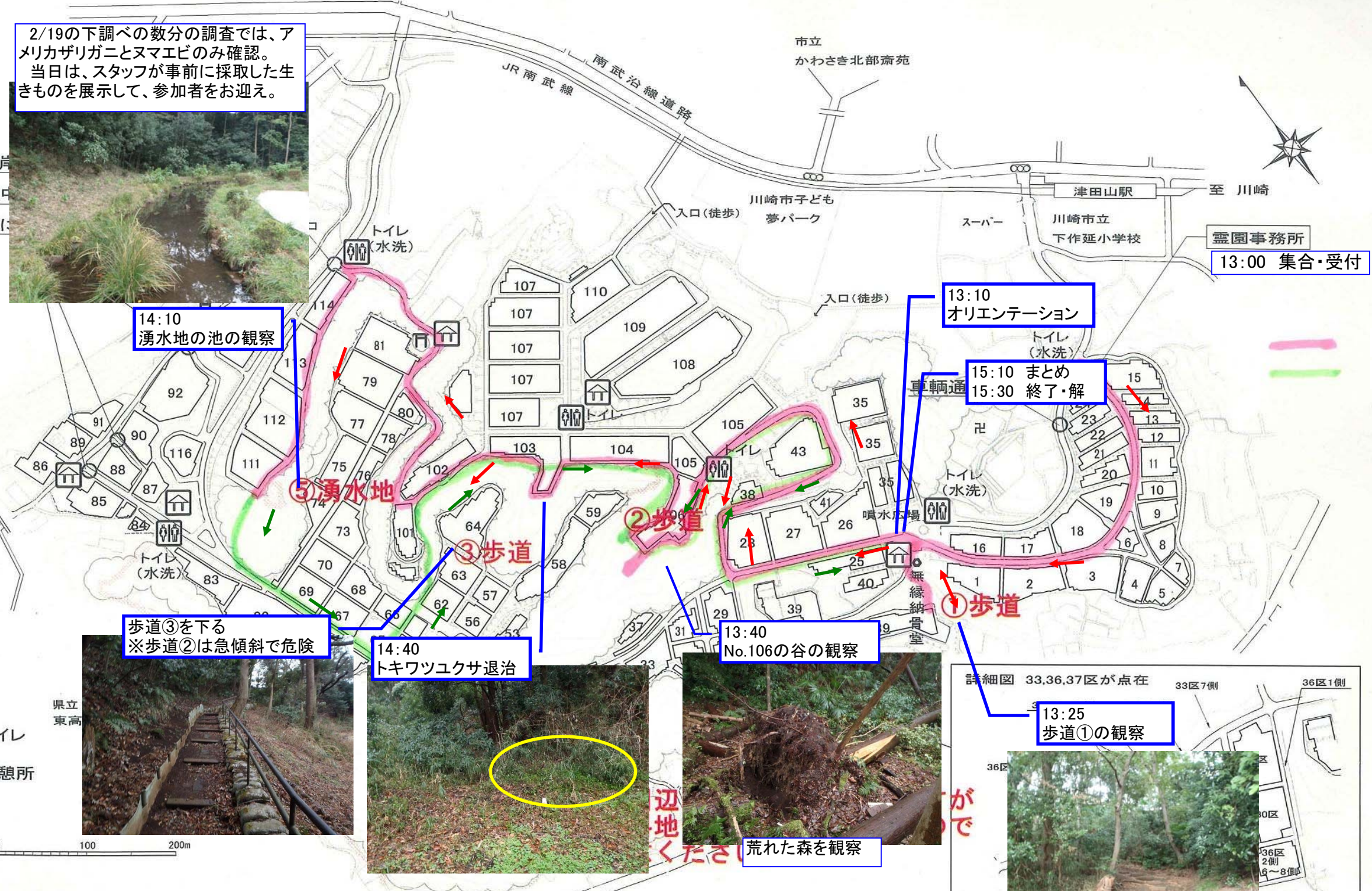
さらに、遊水地の現状確認も行った。皆さんは、ホタルを呼ぶ遊水地にするなど、楽しい将来イメージをされたと思う。今後は、そういったイメージを、様々な谷戸でしていただき、それが「エコシテイたかつ」と繋がるとよいと思う。

ここは、すばらしい谷戸が多くある。今後も、活動をしていきたいと思う。

緑ヶ丘霊園案内図

2/19の下調べの数分の調査では、アメリカザリガニとヌマエビのみ確認。
当日は、スタッフが事前に採取した生きものを展示して、参加者をお迎え。

お彼岸
期間中
止め:



14:10
湧水地の池の観察

13:10
オリエンテーション

15:10 まとめ
15:30 終了・解

歩道③を下る
※歩道②は急傾斜で危険

14:40
トキワツユクサ退治

13:40
No.106の谷の観察

13:25
歩道①の観察



暗い森と、侵食された地面、土で埋まった側溝などを観察。

往路
復路

トイレ
休憩所

0 100 200m

至森林公園バス停

交通 JR南武線「津田山駅」下車 霊園事務所まで250m 徒歩3分、霊堂まで1200m 15分
JR南武線「久地駅」下車 久地口まで450m 徒歩6分

